

第3回丹波新地域ビジョン検討委員会 記録

1 開催日時 令和3年7月5日(月) 18:15～20:00

2 場 所 柏原総合庁舎 柏原職員福利センター 1階会議室

3 出席者

委員(五十音順)

上甫木委員、角野委員長、構井委員、岸委員、清水(夏)副委員長、
清水(徳)委員、鈴木委員、瀧山委員、土性委員、中川委員、藤田委員、
宮垣委員

※欠席委員：安達委員、足立委員、谷水委員

事務局

丹波県民局：今井県民局長、柳瀬県民交流室次長、西原班長、竹村
本庁ビジョン課：吉住主幹

4 内 容

(1) 開会

- ・角野委員長あいさつ
- ・今井県民局長あいさつ
- ・藤田委員紹介

(2) 議事

- ① 分科会の開催結果
- ② 現行地域ビジョンの確認
- ③ 丹波新地域ビジョンの構成案
- ④ 将来像のストーリー作成について

(3) 閉会

5 議事録

(1) 開会

角野委員長

- ・第3回目の委員会となる。
- ・前回から間が空いているが、前回の議論の確認をした上で進めたい。

- ・取りまとめの段階になっているので、建設的な議論をお願いしたい。

今井県民局長

- ・これまで検討委員会、分科会で5回ご議論いただいたが、コロナの関係で4月以降なかなか身動きが取れなかった。
- ・率直に言って丹波地域のビジョンの策定は難しい。燦然と輝く丹波の森構想がある。そのあとに作られた丹波地域ビジョンも、熱い思いを持った人たちによって作られた。その後のものを作っていくのは大変。
- ・ビジョンをどのようなものにすべきかということになると、素晴らしい計画書を作るというよりも、熱い思いを持ってもらうきっかけとなるメッセージになるようにしたい。
- ・丹波の森協会理事長の酒井丹波篠山市長も、当時の「熱気」を今一度とおっしゃっている。我々としても思いは同じ所ところ。
- ・変える意味はあまりないかもしれないが、環境が大きく変わっている。2050年には、丹波地域の人口は400年前ぐらいと一緒に減ってしまう。関係人口や超スマート社会で人口減少を克服できるかもしれない。未知数である一方で可能性も広がっている。
- ・新しいアクションを起こしていかなければならない。そう奮い立ってもらうための熱いメッセージを新ビジョンに込めたい。
- ・一緒に行動しようと思ってもらえたら、ビジョンの役目を果たすことになると思う。
- ・熱い意見をいただきたい。

藤田丹波篠山市創造都市課長のあいさつ ※異動で委員就任

(2) 議事

①分科会の開催結果

<交流・元気分科会>清水（夏）副委員長

- ・農業林業と自然環境は切り離せないので、自然環境は交流部門から元気部門に移動する。
- ・外から移ってもらうだけではなく、継住ということも考えるべき。若者が残り続ける、移住しないという施策も考えていくべき。
- ・どれぐらいの移住者が必要かなど、数値目標を設定すべき。
- ・今の空き家事情と30年後の空き家事情を考えると、どういう家を残すか分類していく必要がある。どういう家があるかカテゴライズしていくと、借り手と貸し手のマッチングがしやすいのではないか。

- ・関係人口については、関係人口案内所をつくり色々な選択肢を示すことが、多様性に対応した取組になるという意見があった。
- ・動物との付き合い方は、単に棲み分けるといった一方向ではなく、関係性は多様ではないか。
- ・農業林業に限らず、商業観光なども含めて、自然環境と調和した暮らし、精神的な豊かさが求められている。
- ・大規模で儲かる農業も必要だが、家族経営も守っていく必要があり、販売網を確立する必要がある。1次産業がしっかりしていることが大事。
- ・耕作放棄地問題について、それが一体どういうものを指すのかを考える必要がある。良いかどうかは別として、ソーラーパネルを置くなど、他の用途で活用されていることもある。農業に関わる人を減らさない方向性が示す必要がある。
- ・林業は、生産性の高い林業だけでなく、荒れた山が出ない、生き生きと仕事をしているということも加えてはどうか。
- ・生活していく基盤としての仕事がないと移住などもあり得ない。食べていける産業というだけでなく、地域自体の価値を上げる、景観も含めて、丹波ブランドの価値をあげる、アートとの結びつきなども考える必要がある。
- ・観光などの3次産業がうまくいくために、1次産業もきちんと支えていく仕組み作りも必要。

＜絆・安全・安心＞上甫木委員

- ・全体に関わる話として、キーワードが単語だけになっていて、方向性がわかりにくい。新聞の見出しのような形がいいのではないか。
- ・現行ビジョンからこういう部分が良くなったから30年後の姿がこう、というような形でビジョンが描ければいいのではないか。
- ・高齢化は少子化と密接に関わるので、少子高齢化は全体で議論すべき。高齢者とする特定の層だけになってしまうのでいかななものか。インクルージョンの考え方の中で考えるべきでは。
- ・つながり、個人の尊重では、丹波地域特有の女性の自己肯定感の低さが指摘されているので、それを高めるようなことを入れるべき。
- ・どのようにシステムを変えて、様々な地域のコミュニティに若者に参加してもらおうか。
- ・価値や文化が残っているだけでなく、楽しめる、参加できる地域にしていく。コミュニティの新しい在り方を考えていく必要がある。
- ・安全・安心は、医療、食、心、防犯、災害など色々ある。
- ・防災は、ハードよりもソフト面が重要。被災後の話もしっかりとフォローすべき。
- ・丹波は災害が少ないが、防災意識が低くならないように啓発が必要。

- ・安全な食については、農の分野にまとめたほうが良いのではないかな。
- ・ユニバーサル、男女共同参画は、全てを含んだインクルージョンという考え方をすべき。今の時代にダイバーシティはそぐわない。インクルージョンの中にユニバーサルや男女共同参画を入れるべき。
- ・男性、女性という主語をなくす。単に主語をなくすということではないが、皆の意識を変える必要がある。
- ・弱者という言葉は適切ではない。配慮が必要な人に変更する。

＜自立・次代＞ 角野委員長

- ・人口が減っていく中で、集落や地域の自立と個人の自立を整理し、丹波における自立とは何かを見直す必要がある。
- ・従来の価値観からの転換が必要、エネルギーの自立はどうするのか、自立した担い手はどうやって育てられるのか、などの意見があった。
- ・自立という言葉一つをとっても、考え方や定義が異なってしまう。
- ・仕事という面では、自立するために稼がないといけない。起業の議論もあった。
- ・次代ということについては、全ての分科会のテーマにおいて、何をどう引き継いでいくかを議論していかないといけない。
- ・SDGsは必要不可欠。17のゴールを丹波のビジョンの中でどのように示し、次の世代へ引き継いでいくのかを考える必要がある。
- ・30年後の地域の未来なのだから、40～50代ではなく。10代～30代が自分たちで決めて考えることができる地域にしてほしい。
- ・自立を考えるにあたり、自立を支えるネットワークが必要不可欠。孤立ではなく自立。ネットワークの中でアイデンティを確認していく。ネットワーク論が必要。

②現行地域ビジョンの確認

事務局

- ・現行地域ビジョンについて概略を説明

角野委員長→事務局

- ・（現行ビジョンは、どのようにその達成状況を評価するのか。）
第2回検討委員会でも資料をお配りしている指標により、従前から評価はしている。今回はそれに加え、過去にビジョン策定に携ったビジョン委員から聞き取り調査を行い、評価をしていく予定としている。

委員→角野委員長

- ・（前委員の評価だけで、我々は評価をしないのか。）

指標と、過去の委員が提案した際のビジョンからどうなっているのかを聞き取りした上で、我々なりの評価をして、新しいビジョンに活かしていく（検討委員へお諮りする）。

委員

- ・量的な指標と質的なヒアリングの個々の評価はいいが、相互に関係するところの考察をしっかりと聞き取りをするなどしてほしい。

③丹波新地域ビジョンの構成

事務局

- ・丹波新地域ビジョンの構成案を説明（資料2～資料5）

委員

- ・資料3-2の1ページ目、可能性の追求についての表現の中で、「その解決に当たるといふよりは」と書いてあるが、いろんな課題がたくさん出てきている中で、課題をクリアしてからこそ、ワクワクするビジョンとなるのではないか。
- ・これまでに開催した全ての分科会での議論の内容が入っているのか確認ができない。人と人とのつながりが、「人」のところに入りきっているのか疑問。女性や子ども、引きこもりの問題など、ひっくるめて入っているのか。

今井県民局長

- ・「その解決に当たるといふよりは」という部分は、言葉足らずと反省。ネガティブチェックばかりするよりも、前向きに考えようと言いたかった。今後修正する。
- ・人というよりは、ネットワークやつながりという観点で捉えたい。人はたくさん役割を担っているが、多数の役割を担うという意味で、一人多役を意識している。

委員

- ・森、農、人の枠組みは分かりやすいと思っている。
- ・地域の活力をいかに維持するかは課題。
- ・目標の設定についてはこれからの検討課題。項目を見つけて聞き取っていく作業が必要かなと思う。

委員

- ・新しく物事を考えるときに、分析的視点に立って、一つ一つ確認し出てきたことを積み上げていくのは、間違いのない、優しい方法かもしれない。一方で、画期的なものを作るのは難しい。

- ・新しい概念を作り上げるのは難しい。しかしうまく成功すれば、画期的なものができる。
- ・30年後の地域を考えるにあたり、統合的な視点で物事を捉え直すのは意味があり、とても良いことだと思う。難しいところはあるということを押さえて、成功するかどうかはこれからの議論にもかかっている。
- ・これまでのような継続していくような物事を捉え直すよりは、新しく考える方が大事。今回出た3つのキーワード（森、農、人）を使いながら考えるのは、とても良い機会になるのではないかな。

委員

- ・一般の人も読めるように、難しい言葉を使わないでいただきたい。中学生でも理解してもらえることを意識しないといけない。
- ・難しい言葉や専門的な言葉を使うのであれば、注釈を書くべき。誰にでも伝わる文章にすべき。

委員

- ・率直な印象として、よく分からない。一般の方が読んでも、なんのことか分からないのではないかな。最近取り沙汰されているキーワードなどを色々散りばめてあるが、このビジョンでどう動いていくのかが全然見えない。もうちょっと的を絞ってシンプルに考えた方がいい。
- ・30年後の未来を考えるのに、検討しているメンバーが高齢すぎる。今の10代から30代ぐらいまでのメンバーで考えるべき。そういう体制になっていないのが弱いところ。10年後のビジョンを、若者世代も含めて10年かけて作っていく体制のビジョンの方がシンプルで、耳障りのいい言葉を並べるより良いのではないかな。
- ・丹波の森構想での一番の成果は、丹波を故郷と思うふるさと意識の醸成だという話があった。丹波の森構想をレガシーとして引き継いでいくのだとすれば、例えばそこは指標にならないのかな。故郷を思う指標が示されていない。アンケートで簡単に取れる。
- ・大事にしたいポイントとしていくなら、それをもっと伸ばすために何をするかを考えた方がいい。今の新ビジョンは、他の地域でも似たようなものが出てくるのではないかな。

角野委員長

- ・シンプルとか、分かりやすいということに関してはその通り。
- ・森、農、人の3本の柱に集約していく方向で、ご意義がないということにしたい。
- ・3つの中をどう深め、豊かにするかを今後考えていく。

委員

- ・研究者の私にとっては、資料3-2の新ビジョンの検討の視点として挙げられている、寛容性から普遍性までの言葉については、好ましい分かりやすいもの。一般の方に、どこまでわかりやすく噛み砕いていけるか。
- ・これからの30年というのは、これまでとは違ったものさしで指標を測らないといけなくなってくる。単なる多様性ではなく寛容性が必要。
- ・新ビジョンで設定するKPIは、これに沿った形で考えられないか。こじつけや言葉遊びのようになってしまうかもしれないが、5つの性質を価値としてせつかく挙げたのであれば、これをKPIにするのがよい。

委員

- ・KPIは良いと思うが、可能性、普遍性、固有性など、これをどんな指標で表すかは非常に難しい。もし自分が事業をしたら、指標化しづらい目標は柱にしない。指標にしやすい柱にしないと、絵に描いた餅に終わる。言葉としては分かるが、どうやって事業を進め評価していくのかは難しい。

委員

- ・資料6のストーリーとして示されたKPIが酷いと思ってしまったので、5つの性質でのKPIの方が面白い思った次第。

角野委員長

- ・KPIについては、事務局でしっかりと練っていただきたい。
- ・いずれにしても、何らかの指標は求められることになる。地域の人に分かりやすく納得できるものを。この場では、大きなテーマ・課題であるという認識であることの確認としたい。

④将来像のストーリー作成について

事務局

- ・資料6により説明
- ・将来像をストーリー化し見えるかをすることで、分かりやすくする。
- ・現行のビジョンでも3話ほどストーリーを掲載していたが、今回はもっと細かく作成して、分かりやすくしていきたい。
- ・検討委員の皆様にも、マイストーリーの作成をご協力願いたい。

(3) 閉会

今井県民局長あいさつ

- ・丹波の皆さんが納得し、腑に落ちるビジョンとしていくために、みなさんのご努力やご助言に期待したい。徐々に改善していきたいのでご協力をお願いしたい。
- ・KPIについては、5年くらい事業計画に対するものなので、今回のビジョンでの表現としては良くないかもしれない。ここでいうKPIとは、たとえば普遍性に関して言えば、世界が丹波を知っているということになるのではないか。
- ・神戸ビーフという言葉は世界で知られている。丹波から発信をして、「丹波」という言葉を30年後誰もが知っているということが一つの指標になる。